

地域子育てネットワークだより

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局 令和3年12月号
650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課
E-MAIL : danjokatei@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 2798)



「家族の日」写真コンクール受賞作品決定！



第14回「家族の日」写真コンクールでは、過去最多の1011枚のご応募がありました。19の受賞作品のうち上位4賞の受賞作品をご紹介します。

●HPはこちら https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/ac15_000000451.html

兵庫県知事賞



「東の間の静寂」
坂元拓海さん

すべての受賞作品
はInstagram
でも紹介してます!!

兵庫県議会議長賞



「超大型犬と娘の毎朝の日課」
@u_tandan_mamaさん



@hyogo_family

兵庫県写真作家協会賞



「あなたを丸ごといただきます。」
上田智英実さん

兵庫県豊かな美しい兵庫
推進会議会長賞



「じいじと花火」
金田静香さん

子育てひろば開設者さまへ「ひろばアドバイザー」派遣のご案内

「まちの子育てひろば」を運営するみなさまの要望に応じて専門の資格や経験をもつ「ひろばアドバイザー」を派遣します。親子が楽しめる活動や各種相談にも応じますのでぜひ、ご活用ください。詳しくは県HP「まちの子育てひろば」

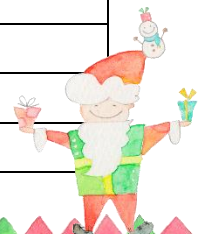


●<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/matinosodatehiroba.html>

プログラム例

動いて楽しむ	親子体操、リトミック、親子ヨガ
見て、聞いて楽しむ	人形劇、パネルシアター、絵本の読み聞かせ、わらべうた
学んでみよう	発達相談、時短家事講座、整理収納講座、小児救命講座
その他	バルーンアート、ベビーマッサージ等

★ご希望に添えない場合もありますので予めご了承ください。



子育て応援ネットの活動紹介

高倉台「ひまわり食堂」

須磨ニュータウンのモデル団地として誕生して48年を迎えた高倉台は美しい自然とよい環境に恵まれた町です。平成21年度から県民交流広場事業の世代間交流として、年6回の子育て世代の方たちを対象とした活動を継続しています。

令和3年8月から子どもの居場所づくり事業を開始しました。「**学習支援**」と「**こども食堂**」を**すべての子どもを対象**として行い、単に子どものための食事を提供するだけでなく、遊びの場、学習の場として、そして**地域のあらゆる世代とのつながりの場**としての居場所を目指しています。

元気な子どもに育ててほしい、太陽に向くひまわりのように、負けない笑顔で上を向いて毎日を過ごしてほしいという思いを含め、「**ひまわり食堂**」と命名。**毎月60名分を手作りでおもてなし**。

世代間交流に参加していた大学生・中学生のボランティアと午前中は宿題をしたり遊んだり楽しく過ごし、お昼ご飯を皆で一緒に食べて過ごします。**食育に興味を沸き、また、大人と関わる事でマナーや挨拶といった社会性も身につけてほしいです。**地域で育つ子ども達の元気な声・笑顔にやりがいを感じながら取り組んでいます。



神戸市婦人団体協議会 理事
須磨区連合婦人会 会長 玉森 たりほ

まちの子育てひろばの紹介



淡路市「^{おむす}御結びひろば」

「^{おむす}御結びひろば」は、淡路市の南東、ショッピングセンターイオンに隣接の建物内「NPO 法人まあるく」が、月2回開催しています。(現在はコロナの為自粛中。)

コロナ禍以前の活動内容は**幼児が舐めても安全な絵の具を使って、「手形足形アート」、紙コップで動くおもちゃ作り、絵本の読み聞かせ、エプロンシアター**など楽しい時間を、来所親子と一緒に楽しみました。



現在は**平日10時～16時に相談窓口を開放し、出産・産後・子育て相談等**をメインにしております。徐々に感染状況も収まりつつある中、様子を見ながら『遊びの時間』も再開していくつもりです。就園前の親子にとって、他の親子と触れ合える時間はとても大切だと思っていますので、もっと落ち着いてきたら、たくさんの親子と楽しい広場の時間を過ごせればと思っています。

特定非営利活動法人淡路島ファミリーサポートセンターまあるく
代表理事 関 美恵子

連載

第154回

ジェンダー平等を実現しよう

県立こども病院名誉院長 中村 肇

持続可能な社会づくりのための目標、SDGsのひとつが、「**ジェンダー平等を実現しよう**」です。

ジェンダーとは、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。今の日本では、ジェンダーがキャリアにおいて障がいになっており、**家庭での男女の役割分担がまだまだ固定的で、国会議員数においても女性は10%未満**です。

小学5年生の孫娘が久方ぶりに我が家にやってきました。彼女は背も伸び、思春期をむかえ初めており、これまでと随分と雰囲気が変わってきたようです。

学校での友達の話の話を聞かせてくれました。彼女は女兒の輪の中での方が、居心地良いそうですが、女兒の中には、男児と一緒にいる方を好む児もいるようで、理解できないと不思議がっています。彼女には、すでに「ジェンダー」を意識した生活が始まっています。

これまでの**規範にとらわれない新しい社会**を、子どもたち自身がどのように作り上げていくのか楽しみです。静かに見守りたいと思います。